

1	開催日時	11 月 16 日 (水)	13:10 ~ 13:40	6	
2	開催場所	Teams開催			産
3	委員	委員長	■ 佐藤委員長		業
		産業医	■ 成松産業医		医
		衛生管理者	■ 森本委員		意
		使用者代表	■ 成松産業医 ■ 森本委員 ■ 久木野委員 ■ 高橋保健師(オブザーバー)		見
		労働者代表	■ 桶田委員 ■ 山崎委員 ■ 名越委員		他
4	(1)労災・交災状況 (福岡オフィス) (2) 時間外状況			7	
				そ	労働災害「0」、通勤災害「0」、残業時間+休日労働時間は「57時間」であった。
				の	時間外最高時間の部署についてですが、残業時間は設備技術部の方です。休日労働の
				他	最高時間は水処理・ガス課(水処理)の方です。
				報	残業+休日労働の最高時間の方は設備技術部の方で残業時間が最高の方と同じです。
				告	派遣先責任者と派遣社員に状況確認した所、事業所検査の書類制作と定修レビューや
					来期予算への計上で時間外、公休日が多くなりましたが、11月は45時間を超えないとの事でした。
					残業時間+休日労働時間別30時間以上の人数 57時間1名。30時間から34時間6人
					です。
					残業+休日労働の30時間以上の職場は設備技術部2名、製造2部生産管理1名
			水処理・ガス課(水処理)1名、MEC2名でした。		
			11月14日世界糖尿病デーについて知識を深める。いま知って欲しい糖尿病の真実Web視聴		
5	● 実績 ○ 予定			8	今回は糖尿病について知識を深めました、来春も定期健康診断が実施されます。
		①労災・交災状況確認の実施(上記4参照)		委員	健診結果で気になる数値があったら放置しないようにしましょう。
		②時間外状況確認の実施(上記4参照)		長	
6	状況			次回	2022年12月21日(水)13:10~13:40
				場所	要調整

佐藤委員長	
成松産業医	
森本委員	
久木野委員	
桶田委員	
山崎委員	
名越委員	

世界糖尿病デー

11月14日

世界糖尿病デーとは

11月14日の世界糖尿病デーは、世界に広がる糖尿病の脅威に対応するために1991年にIDF（国際糖尿病連合）とWHO（世界保健機関）が制定し、2006年12月20日に国連総会において「糖尿病の全世界的脅威を認知する決議（UN Resolution 61/225）」が加盟192カ国の全会一致で採択されると同時に、国連により公式に認定されました。

11月14日は、インスリンを発見したカナダのバンティング博士の誕生日であり、糖尿病治療に画期的な発見に敬意を表し、この日を糖尿病デーとして顕彰しています。

世界糖尿病デーは、現在、世界160カ国から10億人以上が参加する世界でも有数の疾患啓発の日となっており、この日を中心に全世界で繰り広げられる糖尿病啓発キャンペーンは、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知する重要な機会となっています。

世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられますが、これは、糖尿病に関する国連決議が採択された翌年2007年から使われるシンボルマークです。国連やどこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、“Unite for Diabetes”（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

シンボルマーク

WORLD DIABETES DAY LOGO



world diabetes day

14 November



世界で5秒に1人の命を奪う糖尿病（1）

糖尿病は今や世界の成人のおよそ10人に1人（10.5%）、5億3700万人が抱える病気です。

一般的に死に至る病気との認識は薄いですが、年間実に670万人以上が糖尿病の引き起こす合併症などが原因で死亡しています。これは世界のどこかで、5秒に1人が糖尿病に関連する病で命を奪われている計算となり、AIDSによる死者に並ぶ数字です。

ちなみに、国連決議が採択された2006年は10秒に1人でしたから、残念なことに16年間で半分の秒数になってしまいました。。このまま進むと、世界の糖尿病人口は、2045年には約7億8300万人に達することが予想されています。

糖尿病患者の増加は特に発展途上国で顕著に見られ、経済成長、生活水準の向上、教育改善の大きな妨げとなっています。

世界で5秒に1人の命を奪う糖尿病（2）

IDFによると・・・

- ・2021年 世界の成人（20-79歳）糖尿病人口は5億3700万人⇒2045年には約7億8300万人に増加と予測。そのうち、50.1%は診断されていない状況です。糖尿病の診断の遅れは合併症発症リスクを高めます。
- ・2021年 世界で670万人が糖尿病の合併症などで死亡しています。
- ・世界の20歳以下の1型糖尿病患者数は、120万人以上、そのうち54%は15才以下となっています。184,000人が毎年新たに1型糖尿病と診断されています。
- ・糖尿病の成人の4人に3人が低・中所得国に住んでいます。
- ・2021年 世界の糖尿病治療と合併症管理にかかる医療費は9,660億USD（約143兆8300億円）となり、15年間で316%増加しました。

出典：[IDF Diabetes Atlas 10th edition 2021](#)

日本国内での脅威

2016年に実施された糖尿病実態調査※によると、日本には約1000万の「糖尿病が強く疑われる人」が存在します。さらに、「糖尿病の可能性を否定できない人」も約1,000万人おり、合計で総人口の15%を超える約2,000万人の糖尿病患者および予備群があると推定されています。糖尿病の重症化予防のためには早期発見・早期治療が重要ですが、医療機関や健診で糖尿病といわれたことのある人の中で、「治療を受けていない」人の割合は、特に男性の40～49歳の働き盛り世代で最も高く、約5割が未受診または治療中断という状況です。糖尿病には痛みなどの自覚症状が少ないことから、疑いがありながらそのまま治療を受けないケースが多くあることが、その要因と考えられています。

※平成28年国民健康・栄養調査

